

2050ゼロエミッションにむけた 東京都の取り組みを知る、学ぶ

～持続可能な未来へ、ありたい社会へ向けて～



オンライン
環境エネルギー学習会

開催報告

東京都では 2050 年ゼロエミッションの実現に向けて、2030 年までに温室効果ガス排出量を 50%削減(2000 年比)する「カーボンハーフ」を表明し取り組みを進めています。今回の学習会では、東京都環境局と産業労働局より講師をお迎えして都民である組合員への働きかけや都内の生協事業所での具体的な取り組みにつながるお話を伺いました

日程:2023年3月6日(月)13:30~13:15

参加:38名(当日29名、後日動画9名)

主催:東京都生協連

環境・エネルギー政策担当者交流会

協力:東京消費者団体連絡センター

「HTT」の取り組み 東京都環境局総務部環境政策課 花井亮さん

電力を（H減らす、T創る、T蓄める）を強力に推進

東京都では、脱炭素化とエネルギー安全保障の一体的実現を図るために「HTT」を推進しています。「HTT」のポイントは、電力を<Ⓜ減らす・Ⓜ創る・Ⓜ蓄める>です。

この3つの観点から、電力需給ひっ迫や物価高騰など足元の危機に対応するとともに、脱炭素社会の実現に向けた中長期的なエネルギー安定確保につながるよう強力に推進しています。

2022年4月、新たに戦略広報部を設置しました。広報・PR 活動を推進、周知し、都民・事業者の皆さまと共に、総力戦で取り組むことが必要です。

支援策の最新情報は以下をご覧ください

東京都環境局（環境局 HTT）

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/climate/tokyo_coolhome_coolbiz/index.html

クール・ネット東京

https://www.tokyo-co2down.jp/?u_attr=s

建築物環境報告書制度について 東京都環境局気候変動対策部環境都市づくり課 徳田堅さん

太陽光パネル設置義務化スタート、大都市ならではの強み「屋根」に注目！

東京都では、2年程度の準備・周知期間を経て令和7(2025)年4月から「建築物環境報告書制度」がスタートします。都内 CO₂排出量の7割が建物でのエネルギー使用に起因しており、2050年の東京の姿を形づくる新築建物への対策が極めて重要です。

設置義務の対象は、都民ではなく、大手ハウスメーカーなど事業者ですが、住宅の施主・購入者である都民向けの補助金などの支援策も設けています。

太陽光パネル設置に関する Q&A

Q 設置すると、どの程度の経済的メリットがありますか？

A 住宅に4Kwの太陽光パネルを設置した場合、初期費用98万円が10年程度で回収可能です。現行の補助金活用で最大159万円程度のメリットが得られる計算です。(補助金なし119万円)

Q 経済的メリット以外のメリットは？

A 災害時には、スマホや電化製品の利用可能となり、生命線となる電力を確保できます。また、4kWの太陽光パネルで1年間発電した場合のCO₂削減量は、スギ約200本分の吸収量に相当し、脱炭素社会の実現に大きく貢献できます。

太陽光パネル3Rの状況（リデュース・リユース・リサイクル）

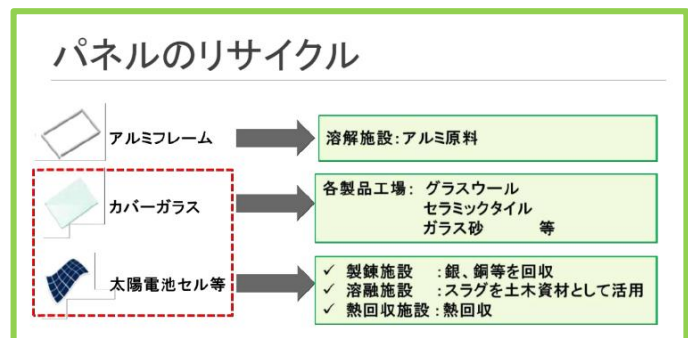
まずは「リデュース」。太陽光パネルの寿命は25～30年。ぜひ長く使っていただきたいです。また、太陽光パネルで発電した電力を家庭で使用できる電力に変換するパワーコンディショナーは、パネルの寿命より早く取り換えが必要ですが助成制度があります。

太陽光パネルの使用（寿命）が終了してからリユース・リサイクルとなります。太陽光パネルの設置本格化は2012年頃のため、現段階ではほとんど発生していないと考えます。ただし、事業用のメガソーラーなど自然災害により使用できなくなる場合の排出があり、約7割は「リユース」されています。住宅用は屋根に合わせて形状が違うことや、使用年数も事業用に比べ長いなどの理由から、排出数は少なく市場での取引は行われていない状況です。パネルの約3割が「リサイクル」されています。

太陽光パネルはリサイクル可能

首都圏にリサイクル施設は7か所あります。すでに事業用太陽光パネルをリサイクルしており住宅用もリサイクル可能です。パネルは太陽電池セルをカバーガラスとバックシートで強固に挟み込んでいるため、リサイクルするにはガラスを分離する高度な技術が必要でした。現在は様々な技術が開発されリサイクルを可能としています。太陽光パネル取り外しを依頼する工事業者とリサイクルをご相談ください。

東京都は、2022年9月に解体、収集運搬、リサイクル、メーカー、メンテナンス等の事業者で構成する協議会を立ち上げ、既存の事業用ルートを活用することで、住宅用のリサイクルルート確立に取り組んでいきます。



チームもったいない

東京都環境局総務部環境政策課 藤田樹生さん

食品ロスや資源の有効利用、省エネなどの行動を通じて、一人ひとりの「もったいない意識」を高め、消費行動を変えていくことを目的に 2018 年8月に発足しました。活動趣旨に賛同し行動変容のきっかけをつくる取り組みをしていただける方ならどなたでも参加できます。参加者数は、団体318件、個人856人となっています。（2023. 2.9 現在）

【参加生協】コープデリ連合会、生協コープみらい、生協パルシステム東京、東都生協

チームもったいない

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/policy_others/team_mottainai/index.html

車両でのゼロエミッションに向けて

東京都産業労働局エネルギー政策部新エネルギー推進課 折原岳朗さん

来年度は「EVトラック」の助成スタート

都内で新車販売される乗用車を 2030 年までに 100%非ガソリン化することを目指して、新車を対象とした車両購入の助成と電気自動車・プラグインハイブリッド自動車用充電設備を設置する際に助成をしています。

また事業者で設置する急速充電設備は、国と東京都の制度を併用することで、いずれも上限はあるものの、全額助成金で賄うことも可能です。設備導入費、設置工事費、変電設備改修費、維持管理費についても助成があります。

さらに2023年度は、EVトラックやEVバス促進するための予算を新たに組んでいます。



参加者の声

各種補助政策が充実していることがわかった/東京都のHP閲覧だけでは得られない情報で参考になった/
太陽光発電設備のリサイクル参考になった/助成金について組合員へのおおまかな説明に役立った